



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行しています。

令和7年度 授業改善のための実践研修会（中学校外国語科）

令和7年5月26日（月）実施

「教科書を活かした授業づくり」講師：東京家政大学 太田 洋 教授

ストーリーは、生徒の学びの原動力!!

教科書「Here We Go!」を使って、
楽しみながら、少しずつ「できる」を増やしていこう！



どうやって「できる」を増やしていくの？

そのポイントを今から三つ紹介します！



ポイント1 英語を使う「目的・場面・状況」で学ぶ

★ ストーリーのつながりを活用し、言葉の大切さを教えよう！



○ 特定の場面を思い出すことで「繰り返し」

身近なキャラクターたちの物語は記憶に残りやすく、「いつ、だれが、どの場面で〇〇という言葉を使ったんだっけ？」と発問し過去の場面に戻るなど、行ったり来たりを繰り返しながら表現を学ぶ。

○ 様々な学習方法を活用することで「繰り返し」

音声、スライドアニメ、実写映像、ピクチャーカードの並べ替えなどを活用し、言葉の学びに大切な場面を繰り返し学習する。

〈受講者の声〉

何度も何度もストーリーに戻って英語を学ぶことで、楽しく勉強ができたと感じた。

ストーリーを通して、場面に合った表現を学ぶことや、文法の使用場面を身につけることを繰り返していきたい。

ポイント2 やり取りをしながら文法を学ぶ



★ 「こんな場面で使うのか！」を理解したら、自己表現してみよう！

「How about you?」「How about me?」と教員が問いかけることで、生徒自身が自分事として受け止め、自己表現することにつながる。

そのためにも、まずは教師が自分のことを話そう！

★ リスニングの内容も、自分事に置き換えて考えよう！



リスニングの問いに対して、これまでのストーリーの流れからキャラクターが考えそうなことを予想し、ポイントを絞って内容を聞く。その後、自分事に置き換えることで、更に学びを深める。

〈受講者の声〉

教科書を使って場面・状況を理解しつつ単語や文法を繰り返すことによって、英語の定着を図ることができたと感じた。

Listeningから、「How about you?」「How about me?」の言語活動につなげていき、子どもが英語を使う場面でできるだけ増やしていきたい。

ポイント3 「学び方」を体験を通して学ぶ



★ 今後（中学卒業後）も自律的学習者となるために「学び方」を学ぼう！

「学び方」を生徒自身が体験できるように、教師がいろいろな「学び方」を使って授業をすることが大切。

そのために、教科書巻末にある「英語の学び方ガイド」の活用に加え、研修や実践交流を通して教師同士も学び合い、授業に生かしましょう。

〈受講者の声〉

生徒に「どうすれば良いですか」と聞かれたときに、自分のやり方でしか子どもたちに伝えられなかったのが、巻末の「学び方ガイド」を活用したいと感じた。

【受講者の感想】

教科書の効果的な使い方がよく分かりました。ストーリーの良さを最大限に活かしながら、4技能の能力を伸ばしていきたいと思います。まずは、教材研究を進め、コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、言語活動の充実を図っていきます。豊富なコンテンツを使いこなし、音声指導を大切にしながら、楽しく、表現活動をしていくイメージができました。様々な場面でストーリーを意識しながら読んだり聞いたりしながら、必要に応じて文法事項や会話表現などを繰り返し活用したいと思います。

テーマ：「**災害関連死を防ぐための避難所運営**」地震から命を守り、守った命をつなぐために

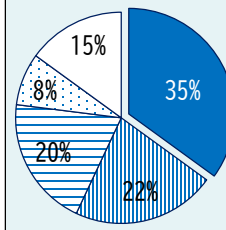
地震の発生から自分の命を守った後、一次避難先や避難所・在宅での避難生活が始まります。避難生活が長引き、**災害関連死**（災害による負傷の悪化又は避難生活等における身体的・精神的負担による疾病による死亡）に至ることもあります。

避難所には、負傷した人をはじめ、様々な事情を抱えた人（高齢者、乳幼児、妊婦、車椅子の人、外国人など）がいます。災害関連死を防ぐために、お互いの人権を尊重しながら「**命をつなぐ**」ことが重要となります。

実際に避難所で起こる人権問題

- ・ プライバシーの確保ができない ・ 避難者の孤立
- ・ 女性、子どもへの暴力や虐待 ・ 被災による差別や偏見
- ・ 障がい者への差別や偏見 など

東日本大震災の災害関連死(1950人)の内訳



- 避難所等における生活の肉体・精神的負担
- 避難所等への移動中の肉体・精神的負担
- 医療機関の機能停止による初期治療の遅れ・既往症の憎悪
- 地震・津波のストレスによる肉体・精神的負担
- 不明・その他



災害関連死の要因で避難所生活の過酷さの割合が大きい

避難者同士で生活のルールなどを話し合って納得できる方法を考え、解決していくことが重要

「みんな同じ被災者」という意識をもち、お互いの人権を尊重し合いながら納得できる方法を考えていくことが大切である。



【演習】「人権に配慮した避難所運営ワークショップ」

人権・こども支援課

テーマ：「**要配慮者に配慮した避難所運営**」

「課題」

南海トラフを震源とする巨大地震発生

みなさんは、近くの小学校に避難しました。避難者の中には、配慮が必要な方もいます。体育館を中心に避難所を適切に運営してください。



子どものストレスがたまらないようにキッズスペースを作ろう。

車椅子の人でも通りやすいような動線を確保しよう。

演習で使用→したカード



高齢者にキッズスペースの見守りをしてもらったり、子どもと一緒に遊んでもらったりすることで役割ができ、お互い精神的に元気になれるね。

一人で避難所に来た人が、孤独にならないように居住組を編成しないといけないね。



怪我をしている人だけの部屋にするともしもの時に助けられない。

トイレは不衛生になったり混み合ったりするから、優先して方針を立てよう。

聴覚や言語に障がいのある避難者や、日本語が読めない海外出身の避難者のために、絵カードや張り紙を使うと有効だね。

防災と人権の二つの視点で避難所運営を!!

普段から多様な立場の人がいることを意識し、お互いを思いやる気持ちを育てる教育活動を行う。



【受講者の感想】

- ・ 避難所では様々な人たちが生活をするため、一つのケースだけではなく多面的に考え、当事者の立場から考えていく人権学習を子どもたちに提供していく。
- ・ 災害時では、誰もが弱者となるため、自己を守るために様々な人権がぶつかり合うことが予想される。相互コミュニケーションと相互理解が大変重要になると感じた。
- ・ 防災教育の中に「誰も取り残さない社会づくり」の視点を入れた学習計画が必要だと感じた。日頃から「自分の人権も他者の人権も守る行動」ができるような学校文化を築きたい。
- ・ 要配慮者が直面する困難や配慮すべき課題を知り、普段から支え合う意識の重要性を感じた。
- ・ 先生や生徒が共助の視点をもてるように、人権教育主任として働きかけていく。